

事後評価結果（平成19年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：山口 登美男

事業名	一般国道335号 茶志別局改	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道目梨郡羅臼町字幌萌 至：北海道目梨郡羅臼町字茶志別	延長	2.6km		

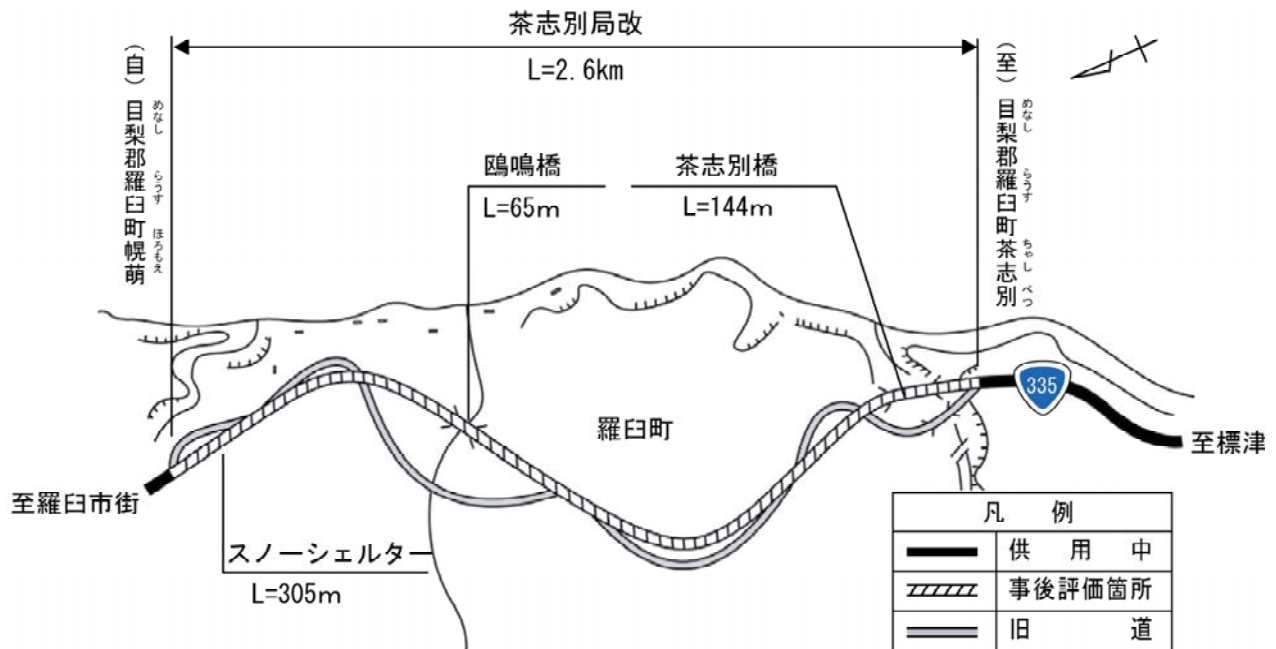
事業概要

一般国道335号は、羅臼町から標津町に至る延長約42kmの幹線道路であり、羅臼町と中標津町、釧路市方面を結ぶ唯一のアクセスルートとなっている。このうち茶志別局改は、羅臼町に位置する延長2.6kmの事業である。

事業の目的・必要性

茶志別局改は、線形不良箇所及び冬期交通障害の解消し、道路交通の安全性や確実性の向上を図ることにより、住民生活の安全性、物流の利便性向上に寄与するものである。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H元年度	用地着手	H2年度	供用年	(当初) - / H14年度	変	動	1.0倍		
		都市計画決定	一年度	工事着手	H元年度	(暫定/完成)	(実績) - / H14年度	動				
	事業費	計画時	(名目値) - / 29.1億円	実績	(名目値) - / 35.3億円			変			動	1.2倍
		(暫定/完成)	(実質値) - / 29.8億円	(暫定/完成)	(実質値) - / 36.2億円							
交通量	計画時	2,208 台/日		実績	2,652 台/日		変	動	1.2倍			
	(当該路線)	(供用前現道)		(当該路線)								
	旅行速度向上	44.0 → 45.3 km/h			交通事故減少	86.1 → 26.5 件/億台年						
	(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) S63年度 (供用後年次) H17年度			(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H元～3年平均値 (供用後年次) H15～17年平均値						
	費用対効果	B/C	総費用 55億円		総便益 60億円		基準年					
	分析結果	1.1	事業費 56億円 維持管理費 0億円		走行時間短縮便益 57億円 走行経費減少便益 2億円 交通事故減少便益 1億円		平成19年					
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		- 億円		便益減少額		- 億円				
	事業遅延の理由	-										

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現道等における線形不良区間の解消等による安全性向上の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の整備により、急カーブ・急勾配が解消し、安全性の向上が図られた。 【死傷事故率の変化】整備前86.1 → 整備後 26.5 (件/億台キロ) ●現道等における冬期交通障害区間が解消 <ul style="list-style-type: none"> 災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落が解消 ・当該事業の整備により冬期の通行止めが減少し、冬期交通の安全性向上、住民生活に安定と安心をもたらした。 【通行止め時間の変化】供用前(H7～H12)：63時間 → 供用後(H13～H18)：23時間 ●農林水産業を主体とする地域における農林水産品の流通の利便性向上の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の整備により、水産物の流通における安全性や円滑性が向上した。 ●対象道路の整備により、削減される自動車からのCO2排出量 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減量 267t-CO2/年 <p style="text-align: right;">他5項目について効果の発現が見られる。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
<p>事業による環境変化</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価、対象外事業である。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口・産業等の社会経済情勢の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・羅臼町において、人口は減少しているが、高齢化率は増加している。 人口 7,805人(H2国勢調査) → 6,540人(H17国勢調査) 高齢化率 9.9%(H2国勢調査) → 19.5%(H17国勢調査) ・羅臼町において、漁獲高は微減となっている。 漁獲高 約15,500百万円(H7北海道水産現勢) → 約13,700百万円(H17北海道水産現勢) <p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>当該事業の整備により、年間を通じた安全性・確実性の向上、物流の効率化など、整備に伴う効果が発現されている。よって、今後の事後評価の必要性はない。 また、改善措置の必要性はないが、今後も利用しやすい道路環境の確保に努め、適切な維持管理を実施し、そのコスト縮減に努める。</p> <p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p> <p>特記事項 特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。